

インターバンクの声（2017 年 4 月 6 日）

オートマティック・データ・プロセッシング(ADP)社が発表した 3 月の米民間雇用統計は、非農業部門の民間就業者数が前月から 26 万 3 千人増と市場予想を大幅に上回り、これを受けた円相場は 111 円台中盤近くまで円売り・ドル買いが進んだ。

ただ、この円売りの勢いも長く続かず、まずは 3 月の米 ISM 非製造業景況指数が市場予想を下回ったことでドルの上値が抑えられ、日本時間午前 3 時に公表された 3 月の米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事要旨の内容がドル売り・円買いを強めた。FOMC メンバーが年内のバランスシートを縮小する考えを示していたことが分かったため、市場の一部が利上げの必要性が減少すると考えたことや、金利見通しが予想通りだったことがドルを売りに向かわせたようだ。

FOMC 議事要旨への反応がこれほど大きくなければ、明日の雇用統計の数字次第では一段のドル高も期待できたが、足元では利上げ回数議論が後退させられてしまったので、注目はトランプ大統領と習近平主席との会談に絞られている。

提供:SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。